

大中PRIDE



大津町立大津中学校
生徒指導通信 3号

令和5年4月28日(金)
文責：岡村 康平

ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる

私には今年度の目標が2つあります。1つ目は家事をしっかりと行うことです。皿洗い、トイレ掃除、風呂掃除、洗濯物を干したり、たたんだり…。(妻に叱られないように、) 精一杯の努力を果たす決意です。2つ目は毎朝大津中周辺のゴミ拾いをおこなうことです。きっかけは去年担任をしていた生徒がゴミを拾ってきたことです。その生徒が登校する途中にゴミがとても散乱していたそうです。「なぜゴミを拾おうと思ったの?」と聞くと、「登校するときにゴミが落ちていたら嫌な気持ちになるからです。地域を少しでも綺麗にしようと思うと、体が勝手に動いていました。」とのことでした。私はその生徒の心の綺麗さに感心させられると同時に、ある言葉を思い出しました。

「自分がしていることは、一滴の水のように小さいことかもしれないが、この一滴なしに大海は成り立たない」

これはマザー・テレサの言葉です。確かに一人が拾うゴミの数は限られているのかもしれませんが。小さいことなのかもしれませんが。ひとつ拾えば、ひとつだけしかきれいになりません。しかし、このひとつのことに想いを込めて、毎日続けることができれば、続けた分だけ地域が綺麗になります。去年担任をしていた生徒から、ゴミ拾いを行う中で私自身も何か良い方向に変わるかもしれないということを学ばせてもらいました。

とある本にこのようなことが書かれていました。「愛は溢れていく」と。

一人の長距離トラック運転手が、自分の体験を新聞に投書していました。

「その日、自分は夜っぴて運転し続けて、あと少しで目的地に到着するはずでした。朝の七時頃だったでしょうか。目の前を一人の小学生が、黄色い旗を手にして横断歩道を渡り始めたのです。」

運転手は疲れもあってか、いまいまく思い、急ブレーキをかけ、トラックをとめたそうです。ところが、その小学生は渡り終えた時、高い運転台を見上げて、運転手に軽く頭を下げ、「ありがとうございます。」と言ったそうです。

「私は恥ずかしかった。そして決心したのです。これからは横断歩道の前では徐行しよう。そして、もし道を渡る人がいたら、渡り終わるまで待ち、笑顔で見送ろうと。」

ほほえみ、優しさ、愛は、このようにつながり、溢れていくのです。運転手に笑顔で見送れた人は、嬉しくなって、おそらく、言葉も、態度も、その日一日優しくなったことでしょう。小学生の笑顔と、「ありがとう」の一言は、それ自体は小さい行いかもしれません。しかし、それが次につながり、相手の心を優しくし、その優しさが溢れていって、社会に、家庭に、学校に平和を作り出すのではないのでしょうか。

あなたたちには今年度の目標がありますか? そのために何を頑張りますか?

目標達成に向けて、一つ一つのことに想いを込めて、頑張ってください。

一つ一つのことが、いずれ大きなものになっていきます。そして、それが人の心を動かすかもしれません。その人も何か変わるかもしれません。

大中同心～Let's Connect～

みんなで良い方向につながり、大津中を、大津町をさらに良い方向に進化させていきましょう!

ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる

